

うつくしま広域スポーツセンター
第2回企画運営委員会

日 時 平成26年11月20日(木) 13:30~15:00
場 所 ふくしま中町会館 6階 北会議室

- 1 開 会
- 2 あいさつ 企画運営委員長 鈴木浩一氏
- 3 議長選出
- 4 報告事項
(1) 平成26年度うつくしま広域スポーツセンター事業の進捗状況について
(2) うつくしま総合型スポーツクラブユニオン事業について
- 5 協議事項
(1) 平成27年度うつくしま広域スポーツセンター事業へ向けて
(2) その他
- 6 情報提供
(1) うつくしま広域スポーツセンター講演会・シンポジウムについて
(2) その他
- 7 その他
第3回企画運営委員会について
- 8 閉 会

【会議の概要】

平成26年度うつくしま広域スポーツセンター事業の進捗状況について会津地区、南会津地区で行われている「基点クラブ支援事業」を中心に事務局から報告されました。協議事項のなかでも「基点クラブ支援事業」について、来年度に向けて更に拡大・充実させるための情報発信の仕方やそれぞれの委員が所属する団体の立場からどのように連携を図っていけばよいか意見を求めました。情報発信についてはFacebookやTwitterなどの活用も有効な手立てとなるのではないかという意見も出されました。

ユニオン事業の報告では、9月に本県で開催された「全国レクリエーション大会2014 福島特別行事」が成功裏に終わり、県レクリエーション協会には全国の参加者からメールや手紙で称賛のコメントをいただいたことや今後は福島大会をモデルとして開催していくことなどが報告されました。



鈴木浩一委員長の進行のもと議事がスムーズに進められた。



委員の方にはそれぞれの所属する団体の立場から総合型地域スポーツクラブとの連携について意見が出された。

うつくしま広域スポーツセンター

講演会・シンポジウム

期 日 平成26年11月24日（月）

会 場 二本松安達文化ホール

参加者 147名

【概要】

日本ビーチ文化振興協会理事長である朝日健太郎氏（北京、ロンドンオリンピックビーチバレーボール日本代表）を講師としてお迎えし、うつくしま広域スポーツセンター講演会・シンポジウムが開催されました。

オープニングセレモニーでは、宗形守敏会長よりご挨拶をいただき、来賓として、ご臨席を賜った二本松市長の新野洋氏より祝辞を頂戴しました。

講演会では、参加したクラブ関係者や学生などを前に「アスリート人生で得たもの」と題して、朝日健太郎氏が映像を交えてのビーチバレーボールの紹介やご自身の運動経験。また、運動を継続させるための目標設定の仕方や困難に直面したときの対処法などについて話されました。体の大きさにまつわるエピソードもあり、楽しくあっという間に予定時間になってしまいました。

シンポジウムでは、コーディネーターとして、中澤謙氏（公立大学法人会津大学文化研究センター上級准教授）、シンポジストとして、齋藤尚美氏（東京都杉並区教育委員会事務局スポーツ振興課事業係係長）、原田和弘氏（国立長寿医療研究センター研究開発研究員）、朝日健太郎氏が参加され、より多くの人々がスポーツや運動を開始・継続するためには、どのような働きかけをすればよいのかについて意見交換をしました。原田氏からは、行動変容理論に基づき運動習慣の獲得について述べられました。齋藤氏は、区民の実態調査をもとに行動変容理論を応用して作成した、杉並区のスポーツ推進計画について述べられ、朝日氏からは、アスリートの立場から自分の考えを話されました。環境が変わる、環境を変えることによりスポーツ・運動への意識や行動が変わっていくことを理解する貴重なシンポジウムになりました。

講演会・シンポジウムにご協力いただきました皆様に感謝申し上げます。



来賓祝辞を頂戴した
二本松市長 新野 洋 様



講演者 朝日健太郎 氏
子どもの頃は、鉄棒、マット運動、
水泳が苦手だったそうです。



コーディネーターの中澤氏



シンポジストの朝日氏



シンポジスト齋藤氏



シンポジスト原田氏



参加者のみなさん

各種団体連携事業 鮫川村の青生野地区でのスポーツ教室

【内容】

総合型スポーツクラブの拠点から離れた地域へ指導者を派遣し、スポーツ活動の場を提供する事業として、さめがわスポーツクラブが中心となって行いました。鮫川村の青生野地区には村の運動施設や公民館などが無いので、青生野小学校と連携しながら学校の体育の授業を切り口としてクラブの指導者が関わり運動機会を提供しました。



事業は9月8日(月)から11月19日(水)の間に全10回程行われました。内容は陸上運動、体づくり運動、ボール運動と多岐にわたり、さめがわスポーツクラブのクラブマネージャーでもある蛭田清代枝氏が指導にあたりました。子ども達中心ではありましたが、青生野地区の地域の方々に学校からも宣伝した効果があり、11月上旬の「ふくしま教育週間」に事業が行われた時には地域の方々も学校の体育館で子ども達と一緒にボール運動を行い楽しく活動することが出来ました。



各種団体連携事業 埴町でのタグラグビー交流大会

【内容】

平成26年11月15日（土）に県南ユニオン地区のNPO法人はなわれあいスポーツクラブが主管クラブとなりタグラグビー交流大会が開催されました。

今回の大会を開催するにあたってはタグラグビー教室を開催している総合型クラブや地域クラブが参加して合同練習や交流試合を行うことで活動レベルの向上とタグラグビーの競技のPRを目指して開催されました。

埴町の町営体育館アリーナで行われた開会式には、にほんまつ城山クラブのタグラグビーチームをはじめとして、いわき市や郡山市にあるチームも駆けつけ賑やかな交流大会となりました。



交流大会はタグラグビーのサントリーカップ全国大会の前に行われたということで、選手や指導者の方々のモチベーションの高まりもみられ活気のある大会になりました。また指導者の方々の試合も行われ、子ども達の良いお手本になっていました。



平成26年度東北ブロッククラブネットワークアクション2014

期 日 平成26年12月6日（土）、7日（日）
 会 場 ホテル福島グリーンパレス 「瑞光西の間」
 参 加 者 140名

【概要】

東北6県より140名の総合型スポーツクラブのクラブ関係者が参加され、「東北ブロッククラブネットワークアクション2014」が福島市のホテル福島グリーンパレスを会場として開催されました。

開会式では、中島道男氏（うつくしま総合型スポーツクラブユニオン会長）より開会のあいさつ、高橋三郎氏（東北ブロック常任幹事）より主催者あいさつがありました。また、情報提供では、加藤弘和氏（日本体育協会クラブ育成課）より、日本体育協会の紹介や助成金の活用、助成金を受ける団体の心得についての説明がありました。

今年のネットワークアクションのテーマは「総合型地域スポーツクラブの自立・自律を考える」と設定し、基調講演では、「育成プランが目指す理念と方針」と題して、松田雅彦氏（日本体育協会地域スポーツクラブ育成専門委員会中央企画班班長）をお迎えして、育成プランの作成に関わる背景や理念について説明いただきました。総合型スポーツクラブの理念について、種目の総合性や人材の総合性の視点から、会費を納入してどの種目でもできる良さや営利目的のスポーツ団体と異なり、主体となる地域住民が「サービスを受ける側」にも「する側」にもなれる総合型スポーツクラブの良さについて話されました。また、学校現場で指導されている立場でもあり、学校と地域におけるスポーツライフの関連性や学校組織を総合型スポーツクラブへ置き換えてクラブの仕組みづくりを考えるなど非常に有意義な講演でした。



松田先生による基調講演

グループワークに向けた座談会では、コーディネーターの浅沼道成氏（岩手大学教授）が、各県パネリストによる発表から、クラブ運営でうまくいかなかった事例や成果・効果があった事例をもとにグループワークへつながる内容を引き出していただきました。福島県からは、NPO法人エフ・スポーツの相澤さんに事例発表をしていただきました。



コーディネーターの浅沼氏と事例を発表したパネリストのみなさん。

グループワークでは、板垣晶行氏（福島県クラブアドバイザー）をコーディネーターとして、1日目は、各クラブの課題を育成プラン2013の自立・自律に向けた7つの項目に分類し、緊急度と重要度の視点から共通課題の抽出を行いました。2日目は、抽出した課題についての解決策を考え、それを「Can」「Must」「Want」のシートに分類して自立・自律への考えを深めました。最後に、各グループの代表による発表と高橋三郎氏による総括でグループワークのまとめとしました。



コーディネーターの板垣氏



グループワークの様子



グループ代表による発表の様子

今年の東北ブロッククラブネットワークアクション2014は「育成プラン2013」を軸とした基調講演、座談会、グループワークで構成され、参加者全員が共通の認識を持ち、積極的に取り組んでいただきました。意見交換や情報交換を通してクラブの自立・自律について考え、明日以降のクラブ運営の意欲を高めることができた2日間となったのではないかと思います。



まとめを述べる高橋三郎氏

第3回双葉ユニオン会議

期 日 平成26年12月12日（金）
会 場 富岡町教育委員会 会議室
参 加 者 12名

【会議の概要】

双葉ユニオン会長中島道男氏より12月6日（土）、7日（日）に開催されたブロック別クラブネットワークアクションの内容について説明があり、浜通り広域スポーツセンターの閉所に向けて各クラブが自立・自律できるように、（公財）日本体育協会より出された「育成プラン2013」をもとに今後のクラブの運営について考えていくことの必要性が報告されました。

次年度の双葉ユニオン交流事業は今年度に引き続き広野町で開催することを確認し、ワーキングを中心に、できるだけ多くの人に参加できるように実施種目を検討していくことが確認されました。新しい試みとしては、来年度に広野町に開校する「ふたば未来学園」に協力を求めることなどの意見も提案されました。



各クラブが自立・自立に向けた取組をどう行うか、地域貢献として何をすべきかという課題が提起されました。



次年度の双葉ユニオン交流事業などについて各クラブから意見が出されました。

平成26年度会津ユニオン交流事業

開催場所 スポーツ会津ロイヤルボウル
開催日時 平成26年12月14日（日）14時00分～
出席者数 32名（7クラブ）

- | | | |
|----------|-------|-----------------|
| ○開会式 | ・あいさつ | 会津ユニオン会長 福西俊之 氏 |
| ○ボウリング大会 | ・始球式 | 8チームによる対抗戦 |
| ○閉会式 | ・表彰 | 上位4チーム |

【概要】

平成26年度会津地区総合型スポーツクラブユニオン交流事業が開催されました。地区ユニオン交流事業が始まってから2年間ウォーキングを実施してきましたが、今年度はユニオン会議で検討しボウリング大会に決定しました。

当日は、福西会長の始球式でゲームがスタートしました。クラブや年代、男女関係なくチームが編成され、小学生から幅広い世代の方々がボウリングを通して交流を図りました。賞品となる品物をクラブが持ち寄り、福西会長自らが会長賞を持参したりして参加者の意欲も高まりました。ストライクやスペアを取るとお菓子がもらえることもあり、参加された方々は個人のスコアはもちろん、チームの結束力を高め優勝目指して楽しく体を動かしました。ボウリングブーム世代の方々の上手さに驚かされました。

会の運営では、事務局であるスポーツクラブバンビィの湯浅さんを中心としてチラシ作成や会を盛り上げる仕掛けづくり、当日の準備などを積極的に行っていただきました。ありがとうございました。



開会式の様子



始球式



表彰式



表彰を終えて記念撮影！

どのチームも声を掛け合いながら楽しい交流を図りました。

平成26年度うつくしま総合型スポーツクラブユニオン

第5回常任理事会

開催場所 郡山市富久山公民館富久山分室

開催日時 平成26年12月19日（金）14時00分～

出席者数 7名

- 1 開 会
- 2 うつくしま総合型スポーツクラブユニオン会長あいさつ 中島道男 氏
- 3 うつくしま広域スポーツセンタープロジェクトマネジャーあいさつ 鈴木慎治
- 4 議長選出
- 5 議事録署名人の任命
- 6 報告事項
県ユニオン Re-start プロジェクトについて
東北ブロッククラブネットワークアクション2014について
- 7 協 議
(1) 平成26年度県ユニオン事業の成果と課題について
(2) 平成27年度県ユニオン事業の方向性について
(3) その他
- 8 議長退任
- 9 情報交換
- 10 その他
- 11 諸連絡
- 12 閉 会

〈会議の概要〉

県ユニオンの在り方を考える Re-start プロジェクトについて理事長でもある NPO 法人ひのきスポーツクラブゼネラルマネジャーの湯田賢史氏より、4 回開催された Re-start プロジェクトの内容について報告されました。参加者からは頼られる県ユニオンであるためにはどうしたらよいかということが真剣に討議されました。

12月6日～7日にかけてホテルグリーンパレス福島において「東北ブロッククラブネットワークアクション2014」を福島県が東北6県の主管県となり開催された。今年度のテーマは「総合型地域スポーツクラブの自立・自律を考える」とし、グループ・ワークではクラブが持つ課題の把握や課題の解決に向けて積極的に意見が出され大変有意義な会であったことが報告されました。次年度に向けて、今年度の県ユニオン事業の成果と課題について意見が出され、次年度の県ユニオン事業の方向性について話し合われました。次年度の県ユニオン自主事業は県北地区で実施することが会の中で提案されました。



クラブアドバイザーレポート

うつくしま広域スポーツセンター クラブアドバイザー 板垣晶行

今回のアドバイザーレポートは昨年日体協が公表した「総合型地域スポーツクラブ育成プラン2013」の中で、各クラブが自立・自律に向け安定的に発展していくための「7つの取り組みとそのチェックシート」について紹介します。

I、クラブ育成の基本方針について

当育成プランの基本理念は「スポーツを核とした豊かな地域コミュニティの創造」で、地域住民の自発的、主体的なスポーツの推進と地域づくりを担う総合型クラブの育成が期待されています。

この基本理念の実現に向けクラブ育成を図る具体的な方向性や取り組みの視点を「クラブ育成の基本方針」として3項目明示しています。それは①活動のあり方、②組織のあり方、③活動財源の確保であります。

「活動のあり方」については、プレーヤーズ・ファーストの視点（住民目線）や多様なプログラムの実践、地域づくりを視野に入れた公益的な活動の推進などで、「組織のあり方」については、住民同士が連携・協働でき地域から信頼される組織や地域住民の主体的な参画により持続的な活動が可能となる組織などとしています。「活動財源の確保」については、財政的に自立するためには受益者負担を基本とした自主財源の確保が重要で、協賛金や寄付金、指定管理者制度の活用なども含め多様な財源の確保に努めることとしています。



II、各クラブに求められる7つの取り組みについて

この基本理念並びに基本方針を受け、育成プランでは各クラブが自立・自律に向け安定的に充実・発展していくための「7つの取り組み」について提示しています。

7つの取り組みとは、1) 住民が参画する運営体制の整備、2) 安定的な活動拠点の確保、3) 地域に根差した各種事業の展開、4) 地域との相互扶助を築く他団体との連携、5) 地域とクラブをつなぐコミュニケーション戦略、6) 安定的で持続可能な財源の確保、7) 総合型クラブの活動現場における暴力行為の根絶、の7項目であります。

具体的な詳細については「クラブ育成プラン2013」をご参照いただきたいのですが、このように各クラブの運営における指針が明示されたということは、大変画期的なことであるので是非育成プランをご一読ください。

Ⅲ、7つの取り組みとそのチェックシートについて

今回の特筆すべきポイントはこの7つの取り組み項目に則って、各クラブが自己点検・評価できるツールとして「クラブの自立・自律に向けたチェックリスト」も同時に中央企画班が作成したことであります。

これもエクセルバージョンで日体協のホームページからダウンロードできますので、是非有効活用してください。7項目別に多数のチェック項目が準備され、各クラブの現状について簡単に1～3で自己点検でき、その自己点検・評価の結果がレーダーチャートで自動的に表示されますので、各クラブの実態が図表として表示されクラブの長所短所が一目瞭然に判断できます。

このチェックシートの活用ポイントは「定期的に自己点検し評価する」ことであり、公的にどこかに提出するものではありませんので、7つの取り組み項目を各クラブに置き換え必要に応じ気軽に活用していただきたいと思います。可能であれば3～4ヶ月に1回程度このチェックシートでセルフ点検を実施してください。

Ⅳ、持続可能な自立・自律のしくみづくり

今年の東北ブロッククラブネットワークアクション2014は福島県が担当でこの12月に福島市で開催されましたが、今回の開催テーマは「育成プラン2013を活用した、クラブの自立・自律を考える」でした。

基調講演は「育成プランが目指す理念と方針」で、その後の座談会とグループワークでもこの育成プランとチェックシートを意識的に活用したことで、2日間を通じて具体的な7項目の共通認識や表現方法が可能となり、より具体的な議論が展開された感じがしました。これは皆さん現場クラブの運営委員会や理事会などにも応用できるのではないのでしょうか。

このように育成プランというひとつのマニュアル的な指標ができましたので、是非「総合型クラブ共通のキーワード」としてご活用ください。

事業の継続には持続可能なクラブ事業のしくみづくりと多様な財源の確保が重要であります。各クラブの自立・自律に向けた成長戦略を、今後ポジティブに模索するツールとして「育成プランの7つの取り組みやチェックシート」を活用して頂きたいものです。皆さんの積極的なチャレンジを期待しています。



グループ・ワークでの活動の様子
(ブロック別ネットワークアクションより)